

民間企業から見た 教育の現在地

株式会社Z会営業部 学校営業課 竹村武司



英語教育改革と学校現場で できること

英語教育を取り巻く状況

現在、中学校・高等学校における英語教育の成果指標は、「学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階・英検3級程度以上、高等学校卒業段階・英検準2級程度〜2級程度以上）」を達成した中高校生の割合50%とされている（第2期教育振興基本計画（平成25〜29年度））。しかし、実際にこの目標に到達している生徒は、公立中3年生で約32%、公立高3年生で約31%である。

現在の英語教育では「発信力が弱い」ことが課題だと指摘されている（教育課程企画特別部会資料「高等学校英語科目の今後の在り方について（検討素案）」）。生徒の英語力について、4技能全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が

課題である。平成26年度高3生の英語力調査速報では、「読むこと」「聞くこと」は、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）のA1上位からA2下位レベルに集中しており、「書くこと」の得点者は全体の約70%（無回答≠0点の生徒：29・2%）、「話すこと」の得点者は全体の約85%（無回答：13・3%）という状況が示された。

CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。A1・A2（基礎段階の言語使用者）、B1・B2（自立した言語使用者）、C1・C2（熟練した言語使用者）にレベル分けされており、B1が英検2級ならびに「OFLB1」42〜71に相当する。こうした現状の中、株式会社基盤学力総合研究所（Z会グループ）が、ケンブリッジ大学英語検定機構の認定試験センターの一つとして、2016年3月から日本における検定の試験実施運営を開始する。ケンブリッジ英検はCEFRの開発に深く関わっていることから、他の英語検定試験と比較してCEFRのレベルとの整合性が高い試験内容である。英語教育の課題に対する私教育における取り組みとして、学校現場とも連携していければと考えている。

英語教育改革では、「生徒が実社会や実生活の中で、自らが

課題を発見し、主体的・協働的に探究し、英語で情報や考えなどを互いに伝え合うことを目的とした学習」へ転換することを目指して、英語による「思考力・判断力・表現力」を高めるように、英語教育が見直される。「コミュニケーション英語」「英語表現」などの現行科目を、「4技能総合型（必修修科目を含む）の科目」（主に複数の技能を統合させた言語活動）と「発信能力の育成をさらに強化する科目」（主にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの統合型言語活動）という二つの科目に改訂する方向で検討されている。

課題解決のヒント

立命館宇治中学校の実践例

英語教育改革が進む中、近年の大学入試でも、自分の考えをまとめ、相手に伝えるように表現する力が必要な英作文などの出題が増えている。

Z会では研究会を開催し、学校現場で活躍されている先生方に先進的な授業事例を紹介いただいている。2015年は立命館宇治中学校・高等学校の久保敦先生（国際教育センター長）に「英語教育改革に向けた研究・改善の要諦」というテーマでご講演いただいた（同校は、関西初の国際バカロレア認定を受けた学校で、スーパーグローバルハイスクールの指定校にもなっている）。

立命館宇治中学校では、「話す力」を伸ばすため、週2時間の「話す」活動を始めた。おかげで生徒たちは人前でスピーチすることをいとわなくなった。また、ボイススレッド（生徒が音声を吹き込み、教員が確認、コメントできるアプリ）を使って発話指導をしている。発話を個々に確認する時間が省け、英語が苦手な生徒も喜んで音声を吹き込んでいる。

同校では授業中に十分に取組めない課題はICTを活用してサポートしている。例えば、学内Webページから学習プリントをダウンロードさせ（欠席の生徒や保護者も閲覧可）、自主学習に活用させている。同WebページにはCritical Thinking教材も多数収録し、アクティブ・ラーニングにも取り組めるようにしている。さらに、生徒が一人でも理解できるように、音声付きアニメーションの解説教材を提供している。こうして「読む力」「書く力」「聞く力」を養っている。

Z会では、大学入試と実社会に対応できる英語力を養う中高生用英語教科書として、『NEW TREASURE ENGLISH SERIES』を提供している。立命館宇治中学校での、「話す力」を伸ばすための取り組みも、『NEW TREASURE STA GEL』を用いて行われている。

各校の取り組みを参考にさせていただき、Z会でも今後リリースするICTサービスなどを通じて、英語教育改革に沿った教材や指導法を提供していきたいと考えている。